

会、農協、漁協との話し合いはどうなっているのか。

販売所の確保、整備も大切ですが、生産者との具体的な話はしているのか、また、海陽町、美波町の特産品の販売もするようだが、どのような話しになっているのか、この事業の今後の計画と見通しを伺います。

予算が伴うこともあり、もっと早く計画が出た時点で議会に報告なり、知らせて欲しいと思うが、どうか。

町長

この企画は、私が立案し、県の事業を使って計画を進めています。ある店舗の所有者に貸す意志の確認はしていますが、具体的な話はしていません。利用の対象者は、観光客で町内の商店等の営業とは競合しないと考えており、商工会とは話をしていません。農協、漁協、生産者、海陽町、美波町とは話をしています。議会では承認いただければ契約し、協議を進めていきたい。本来なら議員の皆さんに最初の段階から説明し、進

めるべきかも分かりませんが、これは本格的に予算を投入して施設を整備するのではなく、経費を削減した中で一度やってみるということから始めようとしています。

総務課長

当初は、牟岐町地域活性化支援助成金ということで単独事業でしたが、県交付金の平成二十三年度徳島県ががんばる市町村応援事業として、歳出は展示販売所の改修及び設営費で二百二十万円、歳入は交付金で百万円、あとは一般財源となっています。

小中学校で命を助ける授業を

一山議員

各地で大きな災害が起こっています。それだけに応急手当の経験を通し、命の大切さや人のために行動する素晴らしさを学んで欲しいと、命を助ける授業を実施

している町があります。

中学三年生には胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用法など、小学六年生は、救命について考えるところにも、中学三年生の救命講習を受講する動機付けとしてスタートし、応急手当や連携プレーで救命活動を行うロールプレイなどの理解を深めています。

いじめや自殺、そして災害の多い中、命の大切さや思いやり、助け合いは大切な事です。いつどのような事態に遭遇するか分かりま

せん。平日頃から訓練や知識を付けておけば、今自分が何をすれば良いか、するべきかの判断ができるのではないかと思います。子供の頃から命の大切さや人のために行動する素晴らしさを学ぶ、命を助ける授業に対する見解を伺います。

教育長

小学校では、消防署と連携し、救命講習会を開催し、AEDの操作方法や心肺蘇生法を学んでいます。毎年一回の取組で子供達は講習



AED(自動体外式除細動器)

会を通して、手順や技術面だけでなく、命の大切さや少しの知識で家族や仲間の命を救えることを学ぶ良い機会になっています。

中学校では、数年実施していませんが、取り組む価値があるもので、今後実施する方向で働きかけていきたい。

マンゴーのブランド化は

一山議員

まちおこしにつながればとの夢を抱いて、前町長が近畿大学よりマンゴーを譲り受け栽培農家に預託して出羽島で試験栽培を行っています。商品化までには土地、苗木、人件費の問題等、課題が山積しているとあります。既にブランドとして売り出している所もあり、現状は大変厳しいものがあります。これからもブランド化を目指していくのか、どのような構想、計画をもっているのか、予算を